

# 審議会等の会議結果報告

## 【審議会公開用会議録】

1 会議名	平成29年度第2回松阪市安全・安心施策推進協議会
2 開催日時	平成29年11月30日（木）午後6時30分～午後8時8分
3 開催場所	松阪市本町2176番地 松阪市産業振興センター 2階人材育成講座室
4 出席者氏名	（委員）山川良樹、池田憲男、片岡靖、田所桂、松本芳昭、更岡富雄、上岡俊也、大橋秀樹、谷口隆、辻岡孝明、大戸房子、加藤美和、鈴木逸郎、西川幸子、高柳伴子、山本勝之（代理）、湯浅菜美、山口美帆子、井村彰、野呂純一、松田まゆみ、谷口雅美 （市職員）西澄子人権・男女共同参画課長、石川圭一高齢者支援課長、林典亜こども支援課こども家庭支援係長、油谷雅司学校支援課子ども安心担当主幹、小泉明弘防災対策課防災係長 （事務局）越川元博課長、大山久男地域安全対策課長補佐、高口直記地域安全対策課生活安全係長、玉置真由子地域安全対策課生活安全係主任
5 公開及び非公開	公開
6 傍聴者数	1
7 担当	松阪市 環境生活部 地域安全対策課 生活安全係 玉置 TEL：0598-53-4074 FAX：0598-22-1057 e-mail：anz.div@city.matsusaka.mie.jp

### 事項

会長 あいさつ

- 1 各分野における平成29年度上半期の事業等の状況、行動計画の進捗状況などについて
- 2 その他

### 議事録

別紙のとおり

## 平成 29 年度 第 2 回 松阪市安全・安心施策推進協議会《会議録》

- 日 時 : 平成 29 年 11 月 30 日 (木) 18:30 ~ 20:08
- 場 所 : 松阪市産業振興センター 2 階人材育成講座室
- 出席委員 : 山川良樹、池田憲男、片岡靖、田所桂、松本芳昭、更岡富雄、上岡俊也、大橋秀樹、谷口隆、辻岡孝明、大戸房子、加藤美和、鈴木逸郎、西川幸子、高柳伴子、山本勝之 (代理)、湯浅菜美、山口美帆子、井村彰、野呂純一、松田まゆみ、谷口雅美
- 欠席委員 : 山下朋子、山路克文 (オブザーバー)
- 市 職 員 : 西澄子 (人権・男女共同参画課長)、石川圭一 (高齢者支援課長)、林典亜 (こども支援課こども家庭支援係長)、油谷雅司 (学校支援課子ども安心担当主幹)、小泉明弘 (防災対策課防災係長)
- 事 務 局 : 越川元博 (地域安全対策課長)、大山久男 (地域安全対策課長補佐)、高口直記 (地域安全対策課生活安全係長)、玉置真由子 (地域安全対策課生活安全係主任)

○ 議長 : 会長

### 会長あいさつ

○会長

- ・出席の御礼。
- ・前は、辞令交付等。今回は、今までの上半期の進捗状況を各担当から御説明していただくというもの。会議は公開、議事録も公開です。

○事務局

- ・配布資料の確認。
- ・欠席委員の報告。

### 1. 各分野における平成 29 年度上半期の事業等の状況、行動計画の進捗状況などにつ

いて

- ・【別紙①】に基づき各担当から説明。

①交通安全対策 事務局

②防犯対策 事務局

- ③自殺対策 市職員
- ④高齢者の安全対策 市職員
- ⑤子どもの安全対策 市職員
- ⑥災害対策 市職員

○会長

・①から⑥まで一気に説明していただいて大変だったと思いますが、それぞれの分野どこからでも構いませんので、御質問や御意見を聞かせていただけたら有り難いと思います。また、それぞれの部分で補足説明等ありましたらお願いしたいと思います。

○委員

・交通安全対策のところ、11月に死亡事故、ひき逃げがありました。これは人間の心の弱いところ、実際に自分が経験したときに、どう行動をとるかということ。啓蒙ですが、加害者のそのときの心理状況を調べていただいて、鹿にぶつかったという話もありますけれども、ぶつかったら止まるべきではないか。カウンセラーというか、そういうことをあまりされていないのではないか。

○会長

・事故を起こした人の心理状況を広めるというか知らしめるということについてですが。

○委員

・犯罪被害者というのは、犯罪被害者支援センターというのがありまして、全国的には2、3件、三重県は津にあるのですが、いわゆる加害者側に立ってサポートしていくというのは、三重県ではNPO法人で一つあった気がするのですが、加害者側に公的費用を投入しにくい部分があり、まずはどうしても犯罪被害者側をみてしまう。ただ、少年であれば少年院であるとか矯正施設、刑務所であればそういう収容施設、それなりに社会復帰するための教育というのはされていると聞いている。実際に刑務官であったり、専門のカウンセラーが入ったりして心身両面の教育をしている。

・ただ、基本的に交通事故に関して言えば、交通事故を起こせば法律上は最寄りの警察署に届け出て、保護するというのは、ドライバーに義務付けられた話なので、まずそれをせずに逃げないといけないのは何なのか。一つは自分が違法行為をしているから逃げざるを得ないということですね。一番多いのは飲酒、それであればやっぱり加害者側の心理というのは逃げなくてもいい状況を作るということを励行していただきたい。お酒さえ飲んでなければ逃げなくてもすんだというのもあろうかと思えますし、無免許でなければ逃げなくてすんだ、例えば学生さんであれば学校で禁止されている原付に乗ったのを捕まって学校にばれたら処分される、退学になったりする。だから、そういう事情を作らないようにドライバーの方に守っていただくというのが一つあると思う。

○会長

- ・非常に難しい、デリケートな問題ですね。
- ・交通について出していただきましたので、順番に聞きましょう。①交通安全対策で何かございませんか。

○委員

- ・初めてですので、違う質問になるかもしれませんが、行動計画の指標ということで、件数は段々減ってきているのに関わらず、来年度の目標値がぐっと上がっている。こういう傾向が何かあるということなのか。

○事務局

- ・この700件以下という数字は、元々基準値、こちらの計画を最初に作らせていただいたときの数字を基準とさせていただいておりますので、先程委員さんがおっしゃられた通り、確かに現在ここまで数字が下がっている中でというところはあるのですが、目標値のほうはですね、次の行動計画のときに、31年度が更新になりますので、来年度に更新の協議をさせていただくときに、当然この辺の数字の部分は変わってくると思いますし、また指標が出てくるかと思っておりますので、今回に関しては、その作った当初に比べて、想定以上に良い方向に数字が下がったという風に認識しておりますので、次回の計画のときにどのようにするかという課題とさせていただきたいと考えております。

○会長

- ・あくまでも26年度の数字を見て決めた目標値ですので、こういう状態になってきます。
- ・免許の更新に行ったのですが、運転も講習もしたのですが、あのときもう少しマナーとか高齢者の講義があればと思いました。非常に簡単なんです。早く時間が終わって助かるのですが、せっかくするのであれば、もう少し充実させるほうがいいのではないかなと感じた。

○委員

- ・更新時講習、高齢者講習、75歳以上の方は認知機能テストをしてですね。

○会長

- ・75歳以上にはなっていませんが。

○委員

- ・高齢者の方については、一つは身体的機能の低下というものを実際に感じていただくということが大事だということで、反射神経のテストをしたり、そういう講習内容にさせていただいているのではないかなと。三重県ではそういう内容で、愛知県に行ったら

そういう内容と違うというものではなくて、全国的に統一された内容となっておりますので、確かにマナーというものの向上というものもしっかりと学んでいただけないかと思うのですが、すぐに反映というのは難しいと思うのですが、御意見を参考にさせていただきたいと思います。

○会長

・それぞれの住民協議会の代表者の方がみえるのですが、2千万円の予算を持って白線の引き直しをしてもらうというのがあるのですが、地域で御覧になってどうですか。消えているところというのは、自分が住んでいる周りは非常に気になるのですが、それぞれの自治会なりまちづくり協議会からここが全然見えなくて危ないと声が上がってくるようなケースはないですか。

○委員

・私のところは中心市街地のど真ん中ですので、工事をしているところも多い。今のところ大丈夫ですが、第二小学校の向こうのほうは消えかけているところが少しある。第四さんのところは消えかけているところはたくさんありますか。

○会長

・たくさんあります。

○委員

・商業通り、松阪工業のグラウンドと工業に渡る横断歩道が全部消えています。コメダの信号のところではなくて、新町寄りのところがほとんど消えていて、横断歩道かどうかは最初のところしか分からない。

○委員

・そこの地域の住民協議会にあげてもらいたい。あそこは幸だが、たぶんもう出してもらっていると思う。

○委員

・横断歩道のことでお伺いしたいのですが、道路の半分を道路補修されて、そのところだけ白く塗り直して、あとの二本は剥げているままにしてある。こういう状態にされるものなのか。半分だけ工事がしてあるので、そこだけ消えたので二本だけ引き直してあって、あとの二本は消えたままにしてある。同じところで、せつかくなら全部引き直してもらったらいいのに。事故が増えていて、こういう関心があるときにしてもらいたいと思うがそうはならないのか。

○委員

・道路管理者はどうか。

○会長

・事務局、どうですか。

○事務局

・横断歩道は警察のほうになります。

○委員

・これは先程おっしゃっていただいたのですが、道路工事をされたときは原状回復をしてくださいとお願いで確認させていただいているので、おそらく横断歩道があったところに従前は工事しなかったところの状態が続いてたと思うんですね。オーバーレイなのか埋設なのか道路工事があつてですね、横断歩道なりはみ出し禁止の規制なりの標示があつたとしたら、その原状回復というのは大もとのきれいな状態に戻してもらうというのが原状回復というので、おそらく道路の半分を工事で、残りの半分のところは工事をする必要がなかった、いわゆる路面のオーバーレイとかではなくて何らかの違う工事が入って道路を触られたのではないかと思うので、確かにあっちがきれいでこっちもきれいにしてくれたらいいのではないかというのは重々分かるのですが、なかなか工事の手続きで違ってくると思いますし、道路管理者さんも公安委員会の規制ですので、なかなかついでにというわけにはいかないところがある。

・さっきの話で言えば、工業の先生の話にもあつたのですが、正直に言うと、こんな言い方をするとみなさんに怒られるかも分かりませんが、横断歩道、標識、信号、負の財産なんです。警察があんなこと言っているのかと言われるかもしれませんが、景気の良かったところに、本当にここに横断歩道が必要であつたのかということころ、もしくはここに信号機があつてどうなつたのだろうかということころはたくさんあります。というのは、信号機があつて、朝の夕方のラッシュで交通の流れが止まることによって、朝の数秒、1分を惜しむために、生活道路に車が入るようになった。当然、生活道路で危険性が高まる。依然としてその信号の道路はなかなか通っていかない。もしくは、一時停止にしても、本来、見通しの悪い交差点を通行する場合というのは、お互いが徐行して、左右の安全確認、人、自転車、他の車というものに対して注意を払って進行するのはドライバーとしての義務なんですね。道路を利用される方の義務なのですが、そこに一時停止規制というのを、公安委員会でかなり設置していくというのは、それが維持できるのであればいいのですが、景気が悪くなってきて何が残ってきたかということ、当然、標示というのは使っているうちに剥げてきます。車も走れば、天候も。そうすれば、悪くなつた標示はどんどんどんどん塗っていかなくてはならない。限られた予算の中で、ものすごい数を修繕していこうとすると当然一気にはできないので、どうしても通学路であつたり、高齢者の方であつたり、人がたくさん集まる場所であつたり、もしくは消え方が本当に著しいところ、そういったところから順番にさせていただかざるを得ない。毎年

出していただいているのに、順番はいつくるのかということもあるのですが、これは早く出した者順で順番に上から消えていくのではなくて必要性でいきますので、申し訳ないのですが、どこも必要なのですけれども、より必要なところからさせていただいておりますので、言ってもなかなかやってくれないというところはあるかも分かりませんが、そういった事情を御理解いただけると有り難いなと思います。

○委員

・そうすると、半分残ったのはこのまましないで普通ということですか。

○委員

・普通ということではないですが、やりたいのですが、それをやるためにはそこへ予算を使わなくてはならないので。またお金の話をして申し訳ないのですが、やっぱりどうしても器が決まっている中で、投入をしていかなくてはならないので、本当は半分せつかくきれいになったのでいっそのこと全部きれいにすればいいんじゃないかというところもあるのですが、なかなか手が届かないというところがあって。ただ、そうやっておっしゃっていただければ、気づいてないだけかも分からないので、自治会長さんのお名前前で地域地域から要望をあげていただくというのは非常に助かりますので、その中からまた選ばせていただくので申し訳ないのですが、悪いところを良くしたほうがいいよというところがあれば。ただ、個人の意見ではなくて地域の御意見として言っていただければとは思いますが。

○委員

・この前も住民協議会で話をさせていただいたのですけれども。個人の意見ではございません。

○委員

・住民協議会として出さないといけない。半分消えている、交通安全のほうが甘いですと。

○委員

・住民協議会では出してもらってある。

○委員

・返答はもらっているのか。出したときに返事をくれますかと言っておかなければいけない。

○委員

・そこまで言うのか。

○会長

・連合自治会等の機会に、自治会長さんに声があがっているから市へ言ってほしいと。

## ○委員

・一つこの関連で、横断歩道を完璧に真っ白に塗り直したら事故はなくなるのか。というのも、私の地域では近鉄道路があるのですが、そこを渡るのにきれいな横断歩道を待っていても1台も停まってくれない。片足出しても停まってくれない。横断歩道を完備しても、その先はマナーの問題かなと。もう少し警察さんも頑張っていたきたい。松阪の人は伊勢に行くときよく捕まってるよと聞く。松阪は甘い。伊勢は横断歩行者の保護がすごく厳しいと聞いている。市民病院から出てくるところの横断歩道の8割くらいはみなさん停まられますけど、他のところは全然である。命がけで渡らなければならない。設備ではなくマナーの問題だと思いますけれども、もう少し頑張っていただければと思います。

## ○委員

・この間死亡事故があった中川新町の交番前の横断歩道で、現場確認ということで昨日夕方行ってきたのですが、我々が警察の服装をして横断歩道の前に立っても停まらないですね。横断歩行者がいたので車を止めたら、運転手さんに何で停めるのかという顔で見られて、歩行者の人を指差したら、ああとしていた。松阪でも中心街のところ、ここは病院がある、ここは街中で人通りが多いところとかそういうようなところは、ドライバーは停まらなければならないと感覚が強いと思うが、先程申し上げた中川新町のところは直線道路であり、商業施設があるので横断歩道があるのですが、あれだけ道がいいと、車の独善性が出てくるので、嫌がられるか分かりませんが、歩行者妨害という違反取締りもありますので、取締り担当の課長もかなり歩行者妨害をきちんとしなければならぬと日々指示しながらやっておりますし、それだけではなくて、広報啓発もして、三重県は前回の秋の運動から、横断歩行中の歩行者の優先の設定というものを県の重点とさせていただいております。本部長がおっしゃったのは、シートベルトが義務づけられたときも、なかなかシートベルトをしなかった。それを長い年月をかけて、やっと今、運転席、助手席の96、97%、それでも100%ではないのですが、後部座席のシートベルトは言い始めてからはまだ年数が短いので半数以下ですね。ただ、こういうように長い啓発や取締りをさせていただいて、法に基づいた、横断歩行者がいれば停まる、優先して安全に渡っていただけるようなドライバーにしていくという方向にしていきたいなと思っています。ただ、ちらっと御意見いただきましたが、施設を使ってくださいということなのですね。街の中を歩いていると、5m先に横断歩道があるのに、道路を渡っていくんですよ。自分の御都合の良いところで。一時停止あるのに停まらないんですよ。減速していただけなんです。特に歩行者の方になると、信号でも夜中の信号になると車も来ないし人も来ないし物寂しくなるのでしょうか。赤信号でも渡っていく

んですよ。せっかく施設があるから活用していただきたいと思う。横断される方も横断歩道は私が優先だから渡るんだということではなくて、車の動きを見ていただいて、減速して停まってくれそうだなとか、完全に停まったなとか見てから渡っていただく、余裕を持って渡っていただけると事故を減らせるのかなと思っておりますので、利用される側の方も十分御配慮いただくと有り難いなと思います。

○会長

・交通安全対策について、随分議論していただきました。続いて、防犯で御質問はありませんか。

・防犯カメラが随分これまでの協議会の中で議論をしてきたのですが、その基になる条例が作られないということですけども、急いでそれに向けての作業をやっていただきたいなと思いますのでよろしくお願いします。

・それでは、自殺対策にいきます。

○委員

・自殺されている方の年齢の傾向はあるのですか。

○市職員

・図表3で、平成29年9月末を見ますと、男性が20人、女性が3人ですが、年齢的には39歳以下で11人、40～70歳6人、若い方が多いのが29年度はなっております。

○委員

・今は39歳以下が多いということでしたけれども、最近いじめによる自殺ということからすると、いじめじゃないが中学生、高校生の自殺の人数はわかりますか。

○市職員

・19歳以下が1人です。

○会長

・交通死亡事故が全国でも有名くらい松阪で多いという数字なのですが、それよりも自ら命を絶つ人のほうが多いというのは、あまり知られていない、認識されていないと思うのですが、実はこの目標設定のときの議論もいろいろあったんですけども、本当は0ですよ。非常に悩みながら作った目標なんですけれども、実は基準値の年は36名、その翌年43名という方が亡くなっているわけで、何とか安心・安全なまちづくりというのを本気で考えていかなければならないという風に思います。またいろいろな場で御協力をお願いしたいと思います。

○委員

・私は民生委員をしているのですが、民生委員の研修で心の医療センターの方に研修に

来ていただいてお話を聞いたのですけれども、三重県のことをいろいろ勉強させていただいている中で、子どもさんが何らかの原因で自殺されました。そしたら、ある母親は子どもがそれだけ苦しんでいることに気がついてやれなかったということで、母親もまた自殺してしまいました。自分が子どものことに気がついてやれなかったということを気にして、本当にあってはならないことで、私たち民生委員はそういうことが周りで起こったら、残された家族のことをもっと見守りましょうということで、共通認識で聞かせていただいたのですけれども、このお話を聞かせてもらったときに、悩んでみえる方がいたら、ここへお電話をくださいというようなチラシとか名刺サイズのものがありますので、近所のよく一般の方が出入りされるケーキ屋さんとかそういうところに置かせていただくようお願いに行きました。駅で啓発していただくのはいいのですが、駅を通るのは私も数回あるかないかですので、やはり身近なお店屋さんとかへそういう啓発物品を置かせていただくというのもどうかと思ひまして。

○会長

・ありがとうございます。置く場所等も検討していただいて、まさにこの知らせることの必要性という部分も需要が高いと思いますので検討してください。

・次に、高齢者の安全対策のほうへいきたいと思ひます。質問、御意見ありますか。

○会長

・松阪市は数字が多いのをもう一度教えてほしい。四日市市や津市、桑名市等人口の多いところより多い。

○市職員

・図表5のところでもよかったですでしょうか。虐待に関しては、他市でもそうだと思うのですが、いろんな方から御相談いただくケースが多くありまして、疑いがあるからといって実際に虐待かと直接関係あるかと言えないところもありまして、そういった部分でも地域の見守りがあって、そういった御報告が上がってくるということについては、良い面ではないかなと理解しておりますので、そのように受け止めてもらえればと思ひます。

○委員

・介護予防いきいきサポーター登録者とありますが、この間私も初級、中級を受けてまいりまして、次は認知症サポーターを受けてみようかとしてののですけれども、非常に受けると良いということで、受けられた方は喜んでみえます。また、地域でいろいろしてくれていますので、受けた本人としては非常に良いので、包括のほうでも募集をしているのですが難しいところもありますので、市のほうでも募集していただいて、講習を受けていただく方を増やしていただければありがたいかなと思ひます。現場の方は非常

に頑張っておりますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

○会長

・他どうでしょうか。次は、⑤子どもの安全対策について、御質問、御意見ありますか。

○委員

・今日も中学校の校長と話をしている、やっぱりスマホを何とかしやなあかんのやと言っていて、毎年くらい子どもにも親にも講演をしているが、やっぱり悩みが絶えないと言っていました、それから起こるトラブルとかいじめとかがかなり多いというのを校長が言っていました。

○委員

・高度化してくる。誰々が誰かの悪口をそのまま送ってくることはない。誰かになりすまして、匿名のアカウントをまた別に用意して、私はこっちやからこれは知らんよというようなことがあって面倒くさいですね。厄介です。我々は弱いですからね。

○委員

・小学校でも勘違い、思い違いで直接話したら問題にならないことだけれど、短い言葉で伝えることでおかしくなることがある。PTAでも動き始めてもらっている地域もある。

○会長

・グループに入れてもらえない。親が誰かを調べ上げて、教室へ土足で乗り込んでくるという事例もある。家庭教育で何とかしてほしいと思う。

○市職員

・なかなかフィルタリングをかけてもらえていないのが現状だと思います。所持率自体が把握するのが難しく、親のスマホや携帯を使っているというのが結構ありますので、その部分が難しいところがあるのですが、学校のほうでは小学生の頃からネットモラルについての学習を随分やってきていただいています。校区でも、中学校区では人権フォーラム等の中で、こういうネットに関するいじめをとらえて、子どもたち自身が何とかしていかないといけないという気持ちを持って取り組んでいただいているところもあるのですけれども、一方でルールが身につけていない子どももいるというのが現状なんです。それから、また当然、使わなければそういうようなモラルも育っていかないと、そういう部分もございまして、教育委員会としましても何らかの形で啓発を進めながら、保護者、子ども共にそういう問題について考えていただくような機会を作っていきたいなと思っています。

○会長

・大人の世代がきちんとしていかないといけない。大人のいろんな場でも、啓発等をお

願いたいなと思います。

- ・最後になりましたが、災害対策のところに行きます。

○委員

- ・今回の台風で、松阪では携帯にうるさいくらい何回も鳴ってきましたよね。有難いことに。すごく被害に遭われたところでは、避難勧告が出たのが夜中の12時とかで、女一人だから出れなかったわと家にいたら、床下とかになって、そこはなかったらしいんです。けれども松阪はうるさいくらいいただいたのですごいなと思った。

○委員

- ・早い時間に対策本部の中で、市長が早く出すようにと言われて出してもらった。けれども、黒部のほうでは、今まで氾濫したこともなかった勢々川が氾濫して、道路も50cm以上水がついてきたので、垂直避難といって、2階建ての人は2階へ上がった。1階建ての人はボートで出ようとしたが危険だとなった。

○委員

- ・松阪ではないのですが、ちょうど選挙と重なったのでと言われる方もみえました。友達がスマホを見せてくれて、これ何やと思うと、海みたいにすごい水がついていて、高須を見せてもらったのですけれど、え、これ海と違う？と言って見せてもらった。

○委員

- ・スマホは情報が早く見れるから楽なんですよ。

○会長

- ・指示を出している市職員の方がみえますので。どうですか。

○市職員

- ・先程、委員さんのほうからも言っていただきましたが、避難に関する情報の決定というのは、災害対策本部長の市長であります。ただ、私どもは災害対策本部事務局なんですけれども、決定するための情報を集めて、やりましょうという相談を持っています。早めに避難準備情報、高齢者等避難開始という情報を発令させていただく中で、あとは水位や地域から上がってくる情報を基に、避難勧告をさせていただいております。

- ・もう一つ、委員さんが言っていた垂直避難ですが、よくあるのが避難所へ行く途中で流されて亡くなったというような事例がちょこちょこ聞かれるんですよ。それを防がないといけないということで、早めの避難に関する情報、それから今回は夜中、暗いうちに雨量が増えて、それが明るい間だとみなさんどうしよう、どうしようと動かれると思うのですが、逆に暗かったために自宅に留まっていたら、必然的に垂直避難いただけたのではないかなと。おかげさまで、家屋被害とか新聞等でも見ていただいて、床上浸水が200軒近くあったかなと思うのですが、人的被害にあっては怪我をされ

た方がお一人だったということで、みなさんきちんと自宅避難しっかりしていただけたのかなど。また、関係機関等ともその後振り返り等させていただいて、次の台風はきますので、いかに減災につなげるかということで、関係機関と協力させていただいていますので、御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

#### ○委員

・消防団が黄色い「KEEP OUT」を貼って、行ったらだめだとしてあっても行く。それで助けてくれと、行かないといけなくなる。だめだと見て分かるだろうに行く。マナーの悪い人が多い。自分だけは助かると思うのか。そういう人もみえる。

・マナーを考えてくれと言うが、70歳にもなってきたら30年、40年も前に運転免許証をとっている。車の運転マナーは分かっているはずである。教官は大先輩に、あなたマナーが悪いですよとは言えない。もう少し考えてほしいなと思う。

#### ○会長

・いずれにしても、他所から来た人が一様に言うのは、松阪の運転はこわいと言われるんですね。それはみんなが気をつけないといけなくことだし、指示器を出すのが曲がってから指示器を出すというような状態。私もスピードを出すほうなのですが、江戸時代からの里中の狭い道路を結構飛ばしていく車が増えてきて、主要道路の裏道を通って行くというのは非常に危ない。全体的に考えていけないといけなくという風に思います。

・いずれにしても、いろんな各分野の状況を3年計画で来年度が3年目になるのですが、ここで議論したことを施策として反映していくという、そういう協議会です。行政でやってもらっている方々には大変だと思うのですが、目標を達成するように考えていただきたいなと思います。

・他に全体通して御意見ありましたらお願いします。

#### ○委員

・全体というか少し戻るのですが、子どもの安全対策のところ、行動計画のほうに「来年度相談できる場所の紹介、案内を充実させ、新たな冊子の作成・配布を行う」とあります。また、「メールマガジンを作成し、地域での催しなど育児支援に関する情報の周知・充実を図る」と情報の発信を行う予定を記載していただいています。市内で例えば、市民活動団体さんで、子育て応援プロジェクトパインさんたちであったり、今日お越しいただいている子どもNPOさんであったり、そういった現場で活躍いただいている方々がすでに周知という形でホームページを作られていたり、あるいは直接お母さま方の相談をお聞きいただいたり、現場でものすごく頑張っていると思います。こういった冊子の配布であったり、メールマガジンという形で作成いただくということはものす

ごく大事なこととは思いますが、もしよければそういった現場で活躍いただいている方々のお声も反映させながら、周知につなげてほしいなと思います。

#### ○会長

・ありがとうございます。他はどうですか。

#### ○委員

・交通事故で一人死んで、おばあさんが事故に遭われて意識がない。ちょうどこの日曜日、地域の防災訓練をしていました。市長がみえて、こんな松阪の狭いところでひき逃げがあって、一人轢かれた人がまだ身元が分かりませんと挨拶の中で言われました。私が防災訓練の最後の講評で、この近くで事故に遭われたおばあさんがいる。みんなで助けられないか。意識のあるうちに助けましょうと。60人くらい参加したのですが、今日の帰りに見回ろうとしたら情報が入りまして、浴場へ一週間くらい前から来てない人がいる。その話を警察へ持っていきまして、来てもらって、ですがその情報を言った人が、住んでいるのは南町か長月町のほうなので、3年くらい付き合いをしているが名前が長月さん、長月さんと呼んでいたのも名前も分からない。警察が写真を見せて、この人に間違いないと。大体住んでいるところはその辺りだと。それから2時間くらいしたら警察から連絡がありまして、分かりましたということでした。そこで私たちが思ったのは、一週間も分からずに、警察の人も一生懸命に探していたのに情報がなかったら探しようがない。地域にはいっぱい目があって、行政のほうも誰一人として動いた人はいない。市長は、あの時私があそこで言って、あなたが動いてくれてありがとうございます。地域の人みんなで動いて助けたんだと。そういうこともあります。まだ意識不明ですよね。弟さんか身内の方がみえて、御礼を言っていかれたけれど、やっぱり他人事ではなしに隣近所みんなでそういう気持ちを持たないと助けることはできない。もっと事例をあげて運動をしていかないと、机の上だけでは何も進んでいかないと気がします。

#### ○会長

・ありがとうございます。今日の中間報告のまとめのようなことを言っていただきましたけれども、まさにその通りだと思います。

・それでは、次回までの間に下半期の事業が進むように頑張っていきたいと思います。事務局のほうお願いします。

## 2. その他

#### ○事務局

・次回の件でございますけれども、下半期の事業報告をさせていただきたいと思っておりますけれども、予定としては30年の3月に開催予定とさせていただきたいという風に考え

ております。あと、その中で事業報告をさせていただきながら、31年度に行動計画のほうで更新時期を迎えるということもありますもので、来年の30年度に関しては、行動計画のほうの更新の協議がございます。ですので、今年度は3回程の会議の予定ですけれども、来年度に関しては会議の回数が増えるということをもっと御提示させていただきたいという風に考えております。また、次回の会議の中では、前回のアンケート調査をさせていただきまして、今回の行動計画の中でもアンケートの数字で比較をするという欄が結構ございましたけれども、そちらの内容等についても少し協議が出来ればという風に考えておりますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

○会長

・それでは、29年度第2回の安全・安心施策推進協議会を以上で終えさせていただきます。ありがとうございました。